

学校教育目標		志を持ち自ら行動できる生徒の育成			重点目標		自ら考え・判断し、自ら表現・行動できる生徒の育成		
評価計画					自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標に関する評価	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）	
	○確かな学力の向上 ・学ぶ意欲の向上 ・基礎・基本の定着 ・家庭学習の定着	○学ぶ意欲を持たせるために、生徒に授業の見通しを持たせ、生徒の考えに基づく「めあて」と学んだことが分かる「まとめ」を設定する。	学ぶ意欲と進んで課題に取り組む授業 [生徒用学習アンケート] (項目Ⅱ①⑤) [職員：教育課程評価] (番号6)⇒3.2 以上	3	○学校全体で「めあて」と「まとめ」を意識した授業実践を行うことができた。	A	・学校の評価は適切である。	・授業における「自分の考え」「根拠となる	
		○授業における対話活動の場面と自分の考えを書く活動を中心とした場を設定する。 (授業づくりの「さしすせそ」の実践)	「自分の考え」「根拠となる叙述とその理由」を取り入れた書く活動 [生徒用学習アンケート] (項目Ⅱ②③④) [職員：教育課程評価] (番号3)⇒3.2 以上	3	○生徒が授業づくりの「さしすせそ」（さ：定める し：自分の考えを作る す：進んで話し、しっかり聞く セ：整理 そ：総括）を意識化することができた。	A	・年度当初よりも生徒が落ち着いて授業に集中して取り組んでいた。	・活動では、考えの根拠となる事柄を視	
		○各教科担任と指導方法工夫改善教員が連携を図り、個や実態に応じた支援・指導を充実させる。(個に応じた指導の充実、CD層の向上)	指導方法の工夫改善や個に応じた指導の充実に向けた実践 [職員：教育課程評価] (番号8)⇒3.1 以上	2	△基礎・基本の定着に向けて、習熟度別やT Tの授業における個別最適な学び (個に応じた指導) の具現化を図る必要がある。	B	・体験型の授業を工夫することは、生徒の学ぶ意欲を高める上でも大切である。	・説明する際には根拠となる事柄が指し	
		○基礎学力向上に向けた家庭学習習慣の定着を図るために、保護者への周知を推進する。	1 時間以上家庭学習をする生徒 [生徒用学習アンケート] (家庭学習時間)⇒全生徒に対する割合 70%以上	2	△基礎学力向上に向けて、1 時間以上の家庭学習の習慣を十分身に付けさせることができなかった。	A	・読解力の不足(応用力が足りない)と思うので、読書の習慣化や、書く活動(アナログ)とタブレットP C(デジタル)を併用・活用した学習内容の定着が必要であると思います。	・示したり、述べられたりすることができるようにする。	
	○人間関係力の向上 ・主体性・協働性 ・社会性	○道徳科を軸に道徳教育活動の充実を図る。重点項目「思いやり、感謝」「相互理解、寛容」「公正・公平・社会正義」「社会参画・公共の精神」	年間計画及び生徒の実態に即して副読本等を活用した道徳性を高める指導の工夫 [職員：教育課程評価] (番号10, 11, 12) ⇒3.1 以上	4	○教育活動において生徒が主体となって取り組むこと(課題の設定、課題解決のための取組等)を意識した指導計画を設定・支援することで生徒も主体的に取り組む姿が見られるようになった。	A	・学校の評価は適切である。	・各教科・領域における授業(主体的で	
		○人権・同和教育の視点に立った学年・学級づくり (心の居場所・安全・安心な風土の醸成)を行う。	「心の居場所づくり」や「一人一人が大切にされている」ことを心がけている。 [職員：学校自己評価] (番号16) ⇒3.2 以上	3	○総合的な学習の時間では、E S D / S D G s の考えや外部人材を多く活用した取組を行うことで、主体的に生徒が取り組むようになった。	A	・生徒が主体的に学校行事(特に、体育会)に取り組む姿が素晴らしいと思います。	・対話的な学習活動)を通して、主体性、	
		○積極的生徒指導 (自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安心安全な風土)を取り入れ、生徒が互いの考えを認め、主体的・協働的に取り組む態度や資質の向上を図る。	生徒指導の4 機能による教育活動と生徒が主体的・協働的に活動できる企画・運営及び指導 [生徒指導アンケート] (番号1)⇒3.2 以上 [職員：教育課程評価] (番号14)⇒3.2 以上	4		A	・課題等に対して、生徒が主体的に取り組むことを意識付けさせることで、主体性における成果が着実に表れていると思われます。	・学校教育活動の充実・発展を図るとともに、主体性、協働性、社会性、人間	
	○教職員の組織運営と協働体制の確立	○運営委員会・生徒指導委員会等を定期的に開催し、見通しを持った組織運営と共通実践の推進を図る。	教育活動において重点目標を意識しながら見通しを持って運営にあたっている。 [職員：学校自己評価] (番号13)⇒3.2 以上	3	○運営委員会・生徒指導委員会等を定期的に開催し、見通しを持った組織運営を図ることができた。	B	・教育活動を進める中で、様々な教育課題について共有化を図り、組織的に対応していくことが必要だと思っています。	・校務運営上の課題を明確にさせ、その	
		○学年部会や分掌部会内における情報共有と協働的な取組、部会間での連携を図る。	分掌部会、学年部会において情報共有を確実に行之、組織的・協働的に取組を行っている。 [職員：学校自己評価] (番号14)⇒3.2 以上	3	△分掌・部会等において、特定の個人に負担が偏らず、組織的な取組となるような機能・充実を図る必要がある。	A		・課題解決に向けた方策を担当分掌で協	
○地域に開かれた信頼される学校と SDGs の達成に向けた ESD の展開	○学校運営協議会地域活動部会と協力して、地域との交流や協働体験の推進を通して、地域で学び、行動できる生徒の育成を図る。	G Tの招聘、学校開放、M－H A Tによる地域との共同活動などを実施し、生徒の地域行事への参加の機会を増やす。[実際の取組回数]⇒10 回以上	3	○学校開放やM－H A Tによる地域との共同活動を行ったり、生徒が地域行事に参加したりすることができた。	A	・学校の評価は適切である。	・Mボード、学校通信、H Pを中心に継続的・積極的な情報発信や地域連携による学校教育活動への理解を図る。		
	○学校だより (月1 回程度) やMボード、H Pを活用し、随時、情報発信を行う。	情報発信している。 [職員：学校自己評価] (番号18)⇒3.2 以上	3	△地域社会や保護者との連携した取組が十分でなかった。	B	・教育活動を進める中で、様々な教育課題について共有化を図り、組織的に対応していくことが必要だと思っています。	・学校運営協議会の活動を見直しながら、地域とともに行う取組の充実を図る。		
いじめ防止	○いじめを「しない、させない。見逃さない」生徒の育成	○いじめに関するアンケート (月1 回) や生活アンケート、保護者アンケート (学期1 回) の確実な実施及び担任・学年・生徒指導部を中心にした早期発見・早期対応に努める。	[学校生活チェックリスト]の実施と結果の確認及び組織的対応 「いじめ、不安への訴えに対する対応」⇒100%	4	○いじめに関するアンケートに関しては確実に実施することができた。	A	・学校の評価は適切である。	・いじめ事案も含め、生徒指導事案につ	
		○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報の共有と相談体制の確立を徹底し、予防及び早期発見・早期対応に努める。	早期に組織的な対応と取組に努めている。 [職員：生徒指導評価] (番号12)⇒3.3 以上	4	○生徒指導委員会 (いじめ防止対策委員会) の定期開催 (毎週金曜日) により、早期に組織的な対応と具体的な取組を行うことができた。	A	・生徒指導委員会を毎週開催し、早期に組織的対応することでの成果が見られる。	・生徒自身は、「自他の大切さ」を認める	
		○生徒会によるいじめ防止に向けた啓発活動を行う。	いじめや差別をしないための啓発活動(集会・ポスター掲示等)⇒年2 回以上	4	○生徒会によるいじめ防止の取組 (啓発活動) を2 回行うことができた。今後も人権感覚を養う内容の取組を推進する。	A	・生徒との日頃からのコミュニケーションが大切だと思っています。	・生徒が安全・安心な学校生活を過ごせる学年・学級作りに取り組む。	
不登校防止	○不登校生徒の減少と関係機関との連携及び支援体制の構築	○校区内(M－H A T)による教育相談部会や養護教諭研修を通した情報共有及びSC、SSW、関係機関と連携した組織的な対応を行う。	欠席30 日以上を対象にしたケース会議⇒100%実施 不登校・不登校兆候の生徒⇒前年度比減少 [職員：生徒指導評価] (番号4、14)⇒3.2 以上	3	△1 年間を通して、不登校の生徒が増加した。	A	・学校の評価は適切である。	・人間関係作りの充実を図るために、生	
		○学校行事や生徒会活動を通して、人間関係力の向上を図る。	学校行事や生徒会行事に主体的・協働的に取り組んでいる。 [職員：生徒指導評価] (番号27)⇒3.3 以上	4	○資料を基に、不登校生徒の情報を共有することができた。	A	・様々な要因があると思いますが、不登校を生まない取組となるように、小・中学校が連携する必要があると思います。	・生徒が心の居場所となるような学年・学	
		○不登校やいじめを生まない集団(「大切にされる」心の居場所)づくりを推進する。	いじめや不登校を生まない安心・安全な風土の醸成 [職員：生徒指導評価] (番号2、3)⇒3.2 以上	4	○福祉や家庭環境に課題がある場合には関係機関とのケース会議を行い、本人や保護者との相談・支援を実施した。	A	・保護者に対して、キャリア教育の観点から、我が子の将来をどうしたいのかを考えさせる必要があると思います。	・不登校やその傾向がある生徒には、ハートフルルームを活用しながら、家庭や学年、学級担任、SC、SSW、関係機関等による組織的支援を継続していく。	
働き方改革	○働き方改革を推進した教育の質の向上	○業務の目的や目標を明確にし、取組のメリハリを認識させ、働き方改革に対する職員の意識改革をすすめていく。	業務改善委員会を定期的に開催し、教職員の意見を反映させながら、業務改善の方策を具体化する。 年間総時間外の勤務時間⇒前年度比5 %減少	4	○部活動中止日 (水曜日) の徹底により、時間外勤務の個人別時間は減少した。	A	・学校の評価は適切である。	・時間外勤務時間の削減に向けて、ICT	
		○学校閉庁時刻、学校閉庁日、部活動休養日、学校定時退校日の設定及び完全実施を行う。	平日の部活動休養日 (水曜日) 及び週休日 (土、日のいずれか) における部活動休養日の完全実施⇒95%以上	4	○週休日 (土、日のいずれか) における部活動休養日については、大会等の参加により実施できない場合を除き、概ね実施できた。	A	・長時間労働や部活動による負担を減らし、教育活動に特化してはどうかと思う。	・活用も含めた教職員の業務改善 (負担軽減) を図るなど、教職員の意識改革に取り組む。	

◇ 評価について 【自 己 評 価】 4：目標達成(9 0 %以上) 3：ほぼ達成(7 0 %～9 0 %) 2：もう少し(6 0 %～7 0 %) 1：できていない(6 0 %未満)  
【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである



評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
総括的評価	領域	評価の観点	評価指標(①取組指標または②成果指標)	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
	教育課程 学習指導	年間指導計画の作成と実施及び評価	・授業計画・実施表による時数管理 ・教室巡回による質的管理	4	○授業改善に向けた教職員の意識の向上と日常における実践が見られるようになった。 △教職員全員による公開授業は、概ね全員実施したが、協議時間の確保ができなかった。	A	・学校の評価は適切である。 ・一人ひとりの授業が学習する楽しさにつながるが、生徒の基礎学力の向上や達成感にもつながると思います。	・これまでの実践をもとに、授業改善の視点を明確にしながら学力向上のための質の向上を図る。
		学力向上プランに即した指導方法の工夫改善	・生徒授業アンケートによる評価・改善	3		B		
	進路指導	組織的・計画的な進路指導	・ねらいを意識した職場体験、福祉体験活動等の実施	4	○地域や関係機関との連携により多くの人材を活用した取組を行うことができた。 ○E S D の 7 つの能力のうち、「批判的に考える力」「多面的・総合的に考える力」に係る体験活動が十分にできなかった。	A	・学校の評価は適切である。 ・変化の激しい時代だからこそ、生徒の皆さんには、職場体験や福祉体験活動を通して、物事に対する問題意識を持ち、自ら行動できる人になってほしいと思います。	・地域や関係機関の方々と連携・協働しながら、E S D の視点によるキャリア教育の充実のために、学習の目的と方法を明確にした体験活動の充実を図る。
		E S D の視点によるキャリア教育の基礎的汎用的能力の育成	・E S D の 7 つの能力とキャリア教育の基礎的、汎用的能力を関連させた体験活動	3		B		
	生徒指導	生徒指導体制の整備	・報告・連絡・相談体制の確認と確実な生徒指導部会の実施	3	○S C、S S W の参加のもと、定期的に生徒指導部会を開催し、アンケート等も含めた情報及び対策の共有ができた。 △生徒指導部会の内容が全職員に共有できていないことがあった。	B	・学校の評価は適切である。 ・いじめに対する組織的対応、養護教諭やS C による発達特性を持つ生徒への対応、S S W や関係機関と連携した家庭環境の整備・支援は特に評価すべき点だと思います。	・発達支持的生徒指導について研修を行い、教職員の意識改革に取り組むとともに、いじめを生まない学年・学級経営の実践することで安全・安心な学校づくりを推進する。
		いじめや問題行動や不登校への迅速な組織的対応	・生活・いじめアンケートによる早期発見・対応	4		A		
	保健管理	生徒の健康管理	・保健委員会による健康調査、手洗い・うがい指導	4	○感染症対策を全職員で組織的に取り組んだ。 ○生徒会保健委員会による健康観察の取組や健康に係る啓発活動が確実に行うことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・保護者対象の健康教育や食育学習会の開催も検討されてはどうかと思います。 ・コロナ禍の後も、インフルエンザ等の感染症対策が継続されていると思います。	・健康教育（薬物乱用や食育等）については、関係機関と連携を図るとともに、外部講師を招聘した取組や啓発活動を強化・推進する。
		健康教育の充実	・生徒が主体的に学ぶ保健学習の工夫と保健指導の充実	4		A		
	安全管理	自転車通学の安全対策	・通学路の安全点検、登下校指導安全教室	3	△地域からの情報で、自転車の乗り方の指導が必要な場面があった。 ○避難訓練や防災・減災学習をG T と共に実施することができた。	B	・学校の評価は適切である。 ・急勾配の坂や民家がない地域が多くあるので、交通安全指導だけでなく、生徒と一緒に通学路の安全点検を随時行ってほしい。	・安全教育に関する研修では、様々な事故例等を示しながら教職員だけでなく、生徒に対しても安全に対する意識向上を図っていく。
		防災時の緊急対応	・避難訓練と防災教室の実施	4		A		
	特別支援教育	校内特別支援体制づくり	・特別支援教育担当者と支援員の情報共有	3	○個別の支援計画等では、コーディネーターの働きかけにより作成・見直しを行うことができた。 △特別支援教育支援員との間で支援の在り方について情報共有・協議をしていたが、特別支援教育担当者全員が揃って行うことができなかった。 △配慮が必要な生徒の増加により、個別の支援計画等のさらなる活用を図っていききたい。	B	・学校の評価は適切である。 ・特別な配慮を要する生徒やその保護者には、小中学校間の特別支援教育支援員との情報共有・連携を行う必要があると思います。 ・福祉関係者とも密接な連携を図り、学校として特別支援教育に取り組まれていることに感謝します。	・支援を要する生徒の増加により教職員と特別支援教育支援員との連携をこれまで以上に推進していく。 ・特別支援教育の推進とコーディネーターを中心に個別の支援計画・指導計画について内容の充実を図るとともにその活用推進を図る。
		生徒の正しい理解と個別支援	・スクールカウンセラー（S C）やスクールソーシャルワーカー（S S W）を講師にした個別の配慮を要する生徒への支援に係る研修	3		B		
	組織運営	効率的な校務運営	・諸会議等の組織的な開催と効率化 ・校務分掌計画と自己評価の整合性	3	△一部情報の共有が徹底できないことがあり対応に苦慮する面があった。情報共有の在り方について、職員の意識向上が課題である。	B	・学校の評価は適切である。 ・課題等の共通理解や情報共有を図り、適切な組織運営がなされていると思います。	・これまで以上に管理職、主任主事、職員との情報共有及び連携を強化し、職員全体の意識の向上を図る。
	研 修	主題研究・研究授業の充実	・校内研修会、授業公開の実施状況	3	△職員の校外研修（県教育センター専門研修等）など様々な研修への積極的な参加が課題である。	A	・学校の評価は適切である。 ・教職員のスキルアップには、研修への参加も大切だが、日々の実践を大切にしてほしい。	・中堅・若年教諭の校外研修への参加や人材育成に向けた校内研修を充実させ、教職員の質の向上に努める。
		一般研修の推進と充実	・専門研修等の参加数増加	2		B		
	教育目標 学校評価	特色ある学校としての教育目標	・教育目標が地域課題や生徒実態に基づく内容になっているか	3	△生徒や教職員に対する学校教育目標の定着化が十分にできなかった。 △各種アンケートの結果を、改善に十分結びつけることができなかった。	B	・学校の評価は適切である。 ・地域に根差した学校運営がなされており、様々なことが年々改善されていると思います。	・教育目標、重点目標を教職員だけでなく生徒にも積極的に周知し、学校全体で目標達成に向けた様々な取組の充実を図る。
		評価可能な指標が設定されているか	・各種アンケートは校長・教頭・教務担当等による取組指標、成果指標となりうるか	3		B		
	情報提供	紙面やMボード等による情報の提供	・Mボード、学校便り、学年便り等	4	○学校便りやMボードを活用して、積極的に学校の様子を家庭や地域へ伝えた。 ○管理職が手分けし、できる限り参加した。	A	・学校の評価は適切である。 ・Mボードにより学校の様子がよく分かる。 ・学校の透明性確保は大切ですが、学校便りやMボードの更新など相当な時間を要するのではないかと思います。	・健康観察アプリの周知を徹底して加入率を上げ、学校からの情報発信の方法を多様化していく。 ・まち協へのH P の紹介を積極的に行い、学校教育への理解と協力を図る。
		まちづくり協議会での情報提供	・すべての校区まちづくり協議会へ参加し、学校の情報を伝える	4		A		
	保護者・地域との連携	保護者との連携の推進	・授業参観、教育相談会等の取組	4	○地域や保護者が参観できるように、学校開放日を定期的に設定した。また、三者面談や必要に応じて個別の教育相談を実施した。 △地域行事への生徒参加が十分ではなかった。	A	・学校の評価は適切である。 ・体育会や合唱コンクールなど生徒の主体的に活動する姿を見ることができた。 ・M－H A T における学校・地域・保護者との連携をさらに深めてほしい。	・行事等を含めた教育活動については、内容を精査しながら充実を図るとともに、引き続き地域や保護者への参観（月 1 回の学校開放日）を推進する。
		地域との連携	・校区と学校が連携する取り組みへ生徒参加	3		B		
	教育環境整備	教材・教具の整備	・備品調査、教材・教具の整備状況	4	○備品管理・点検、学校施設の安全点検を確実に行うとともに、緊急性を伴う対応については、教育委員会学務課施設担当や市の施設点検委託業者と連携して迅速に対応した。	A	・学校の評価は適切である。 ・校舎内外を含め、定期的な安全点検及び環境美化、整理整頓に努められている。 ・夏の暑さを考えると、体育館の空調（エアコン）設置が必要だと思います。	・事務室と教職員が連携しながら定期的に備品・教材の点検整理等を進めるとともに、施設点検については、市の施設点検委託業者と連携した対応を推進する。
		施設・設備の整備	・毎月の安全点検、自己評価による達成状況	4		A		

◇ 評価について 【自 己 評 価】 4：目標達成（9 0 % 以上） 3：ほぼ達成（7 0 %～9 0 %） 2：もう少し（6 0 %～7 0 %） 1：できていない（6 0 %未満）  
【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである